

「室内空間の残留塩素濃度試験結果」

【引用】一般財団法人予防環境協会室内空間研究所 試験報告書

1. 検体

フェリシモ除菌水 50ppm (及び超音波噴霧装置)

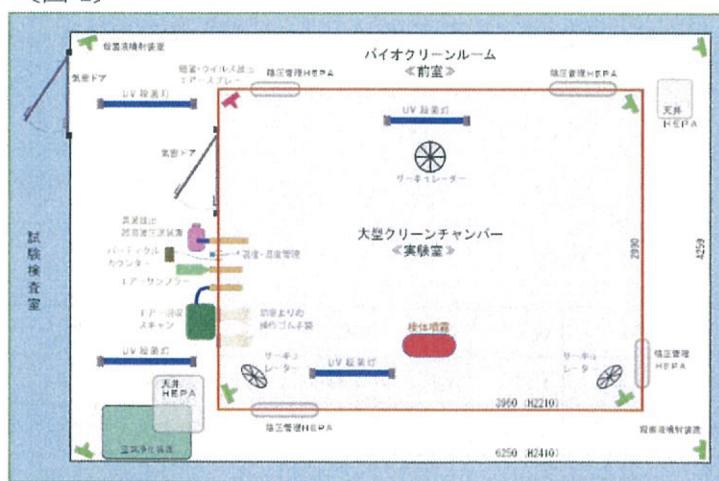
2. 試験目的

検体を超音波加湿器にて噴霧させ、室内空間における残留塩素濃度を測定する。

3. 試験場所

一般財団法人予防環境協会室内空間研究所にて試験を実施した。

[図 1]



4. 試験機材

試験室 : 三重構造の試験室、大型クリーンチャンバー 26 m^3 (約 7畳間相当)

残留塩素測定器 : 新コスモス電機製 XPS-7 (半導体測定 : 0.01~5ppm)

残留塩素測定器 : ガステック製 GV-100 検知管-SLL (検知管 : 0.025~2ppm)

温度湿度 : T&D Thermo Recorder TR-72

除湿装置 : 三菱電機製 MJ-10HGX

サーチューレータ : YAMAZAN YAS-KJ191

5. 試驗方法

1) 試験条件

- ①試験室：室温常温、湿度 50%に調整する。
 - ②検体設置：試験室の 1200mm の高さに室内の中央方向に噴霧するように設置。
最大モードにて噴霧する。
 - ③測定箇所：測定器は、試験室の壁面より室内中央方向に 500mm の位置にてサンプリング。
検知管測定は、壁面より 200mm の位置にてサンプリング。
 - ④空気攪拌：首振りサーチュレータにて、検査室内の空気を拡散。
 - ⑤試験開始：0 時の測定後に、噴霧機器を作動。

2) 試験手順

- ①0時測定：検査室内の温度・湿度・残留塩素濃度を測定。
 - ②検体の噴霧機器を作動。(試験開始)
 - ③各測定：10分毎に温度・湿度・残留塩素濃度を湿度95%に達するまで測定。
 - ④湿度95%にて試験を終了する。

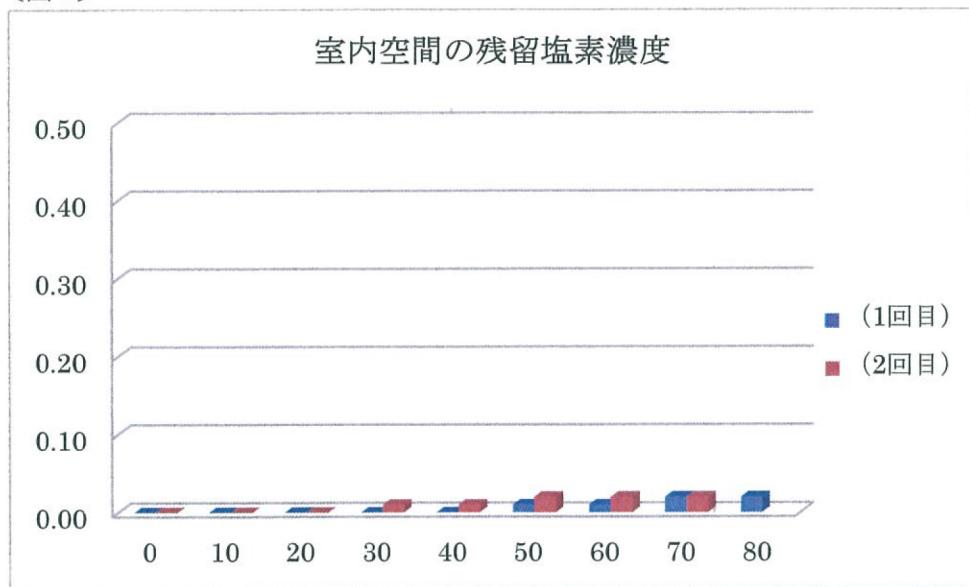
6. 試験結果（計測データ）

〔表 1〕

[表 2]

7. 試験結果（比較グラフ）

[図 2]



※縦軸残留塩素濃度 (ppm)、横軸経過時間 (分)

※縦軸最大値の 0.5ppm は労働安全衛生法作業環境許容濃度を表示。

8. 結果および考察

26 m³（約 7畳間相当）の室内にて検体を最大モードにて噴霧し、室内の残留塩素濃度を湿度 95%まで測定した。

結果として、

最大 80 分間まで測定し、表 1・表 2 と図 2 で示すような数値となった。

試験終了後に試験室に入ると若干の塩素臭はあるものの、のどなどの呼吸器系に違和感はなかった。